

探 検 と い う 言 葉

OB会幹務 松 本 洋

探検という言葉を使う時、今だに何やら恥かし
く面はゆい。大学時代はそれでも、ある意味での
自信があったし、探検という言葉が若さの象徴で
あるような気がして、今よりは平気で使っていた。

しかし、その時でも相手が一人であればまたし
も複数の場合、特に女性が含まれた場合など、こ
の言葉を使ったら、次に返ってくる言葉が相変で
きた。

昨年、今年と韓国、中国などを訪れたが、「何
かスポーツや文化活動をしていますか」と聞かれ
る機会が多く、そのたびに「探検をしています」
と答えると「探検で何ですか」と必らず聞かれた。

ある時中国の女性の通訳の方と話していて同様
な質問を受けたので、その説明に30分以上かか
った事があった。そして最後に「いいですね、色
々と遊べて」と言われ「あーあー、また説明に失
敗した」と痛感した。

以前、ブラジルのマナウスで、通訳を領事館の

方に頼んだところ、その方が我々の名刺を取りあ
げ英文の“エクスペディション”を見るなり「こ
の言葉は消した方がいい。これがあるとインディ
オ保護局の方に誤解を受けるかも知れない。」と
言われ、いそいで消した事があった。

我々はこの名刺を作る際、昼夜考えに考えたも
のだった。探検は“エクスペディション”でいい
かその前に“アカデミック”を入れるべきか、否、
“エクスペディション”という言葉には“アカデ
ミック”という意見も含まれている、などと議論
の結果、“アカデミック”ははずしたのであった。

探検という言葉が与えるイメージは、個人を悩
ませる程の異端見で、その規制の枠からはみ出て
いるかのように思えるため、探検という言葉が本
当に理解されていないのだと思う。

我々は今もう一度探検という言葉を考えるべき
必要にあるのではないか。

探検という名を叫べるように。

